

— 第61号 —

〒214-8565  
川崎市多摩区西生田1-1-1  
日本女子大学教育学科の会  
電話 044 (952) 6870 (代)  
FAX 044 (952) 6889  
ホームページ  
<http://jwu-gakuen.net/>  
メールアドレス  
[info@jwu-gakuen.net](mailto:info@jwu-gakuen.net)

## ホームカミングデー 講演会と交流会のお誘い

会長 澤本 和子

今年も次の通り、日女祭ひめのさいの第一目目に、ホームカミングデーを開催いたします。万障お繰り合わせの上御参加下さい。学生と共に、皆様の御来学をお待ちいたします。

日時：二〇一二年十月二十日(土)

午後一時三十分～三時三十分

場所：日本女子大学

成瀬講堂 南ホール (西生田)

テーマ：いま、哲学を

— 生きること、希望することを学ぶために —

講師：森田 伸子 教育学科教授

当日は学生と卒業生の皆様方と意見交流を行う企画を立てています。奮って御参加下さい。

【申し込み】準備の都合上、なるべく同封のハガキで十月十二日(金)までにお申し込み下さい。

(申し込みなしでの当日参加も歓迎)



## 日本女子大学教育学科の会 会長就任のご挨拶

教育学科教授 澤本 和子



この度、御指名により会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

東京生まれで、小学校教員十八年間と、大学教員九年間を経て、一九九九年四月に日本女子大学に着任し、今年で十三年お世話になることとなります。早いもので、ゼミで論文指導をした学生も百人以上となりました。専門が教師教育・授業研究・国語科教育ということで、教職在職者の多いゼミです。卒業生たちとは、日常的に交流しています。昨日も、二年前、別の進路を選んだ卒業生から、専門学校卒業予定の来春、希望の職場を得たと、喜びのメールが届きました。有難いことです。

昨年の震災では、東北で罹災した卒業生が複数ありました。「生きています！」というメールには泣かされました。その後、桜楓会からも手厚いお心遣いを頂いた、とお礼の手紙を貰いました。今は、新居も得てそれぞれの場で頑張っているようです。

教育学科の会では、これまで長い間、元会長の牧野先生やその後の会長先生、役員の皆様のお世話になっていました。本学着任以前の卒業生の皆様との接点は、今までは、それほど多くはなかったように思います。年長ということで、このお役目を命じられたようですが、残り少ない任期を卒業生の皆様と力を合わせて働かせて頂くのも、貴重な機会と感謝しています。微力ではありますが、どうぞよろしくお願いたします。

## 新しい「縁」を

教育学科助教 宮地 孝宣

提言

私は近頃、「縁」という言葉の大切さを痛感しています。辞書的に言えば「人と人とのつながり(広辞苑)」ということになりますが、言うまでも無く私たちは、誕生してから人生を終えるまで、他者と関係し合いながら、お互いに影響し合い、成長していきます。私たちにとって、もっとも狭い範囲の縁は「血縁」つまり、親子を中心とした親族関係ということになります。家庭における家族同士の教え合い、学び合いによって、子どもだけでなく、親も成長していきます。

次に、「地縁」です。地域社会における近所付き合い、町内会での住民の結び付きなどがこれにあたります。古くから家相互の協同労働の仕組みとして機能してきた「結い(ユイ)」に代表されるように、地域社会の中で、人々がよりよく生活するために助け合ってきました。

現在、都市化、情報化等の進展に伴って、私たちの生活スタイルは大きく変化しています。地域社会の崩壊という言葉が耳にすることも多いのではないのでしょうか。私もそうですが、地域社会とは無縁の生活を送る人が増えていきます。そして、地域社会との関係が希薄となった家庭において、まわりと相談できず、子育て(家庭教育)や親子関係に悩みを抱える親は増えていくようです。今、まさに、「血縁」「地縁」の危機と言っても過言ではないでしょう。

そこで注目されるのが、様々な人々が共に学び合い、支え合う、サークルやNPOなどに代表される新しい「縁」です。子育て、環境問題など、地域社会の様々な課題解決に向けた取り組みが行なわれています。

このような「縁」は、「実践コミュニティ(community of practice)」という概念で示すことができます。「実践コミュニティ」は「あるテーマに関する関心や問題、熱意などを共有し、その分野の知識や技能を、持続可能な相互交流を」

《2ページに続く》

『1ページ「提言」の続き』  
通じて深めていく集団\*」とされま  
す。

様々な分野において、実践コミュ  
ニティが人々をつなぎ直し、そして  
地域社会を再生することが期待され  
ています。「教育学科の会」も「実践  
コミュニティ」の一つと言えるので  
はないでしょうか。

教育学科の会が創出する「学縁」が  
「教育」という共通のテーマについて  
議論し、得た知見を世に発信するこ  
とで、社会をより良く発展させるこ  
とにつながるのではないのでしょうか。  
(\*エティエンヌ・ウエンガー他著  
野村恭彦監修、櫻井裕子訳「コミュ  
ニティ・オブ・プラクティス」翔泳  
社 2002 pp.33-35)

### 平成二十四年度 教育学科の会大会報告

第五十一回  
教育学科の会  
大会が、五月  
二十六日(土)  
西生田キャン  
パスにおい  
て行われまし  
た。



#### 第一部 総会

総会は、会長挨拶から始められ、議  
長の選出、平成二十三年事業報告、  
決算報告が行われました。平成二十三  
年度の事業報告として主な事業は、第

五十回大会が行われ、総会の後四名の  
講師による「学縁の集い」が開催され  
卒業生を囲み学生の熱心な質疑が出来  
た事、十月二十二日にホームカミング  
デーが開催され、藤田武志先生によ  
り「青少年の現在と学校」の講演があ  
り三名のコメンテーターによって興味  
深い論議がなされた事、十一月十九日  
に懇話会が開催され、米田佐代子先生  
により「平塚らいてうと教育パートII  
(自然)の教育をめぐって」の講演が  
あり、興味深いお話が伺えた事、三月  
には紀要「人間研究」第四十八号が発  
行され、会報「葦」第五十九号が九月  
に、第六十号が三月に発行された事な  
どが報告されました。

その後、新役員の選出、平成二十四  
年度事業計画、それに伴う予算案と議  
事が進行致しました。

また、吉崎静夫先生より、「教職教  
育開発センター」の紹介もあり、卒業  
生の中には教職に就いている人が多数  
いるので、センターにリンクして、お  
互いにお話をまわしてあげたら良い  
というお話も伺いました。

役員は会長が森田伸子先生から澤本  
和子先生へ代わられ、他の役員も六名、  
交代がありました。

【報告 副会長 浦野 敬子(25回生)】

#### 第二部 学縁の集い

今年の教育学科の会では、四名の先  
輩方からお話を聞かせて頂きまし  
た。



★荻本さん (59回生)  
(院卒)

★山崎さん (57回生)

★白井さん (61回生)

★齋藤さん (61回生)

★荻本加奈子さん(横浜市立大岡小学  
校に勤務)は、学生時代、2・3年次  
に進路で悩み、長い目で考えた結果、  
大学院への進学を決意し、そこで国内  
外の教育事情を調査し、広い視野を  
もって念願の教員になりました。実際、  
教員は大変だけど、とてもやりがい  
あつて楽しい仕事であるとおっしゃつ  
ていました。自分のクラスを持ち、毎  
日が全力!感動と緊張感で溢れていま  
す。学生時代は、今しか出来ないこと  
をやることと、引き出しを増やすこと  
に取り組みとよいというアドバイスを  
いただきました。

★山崎華子さん(付属豊明小学校に勤  
務)は、日頃大切にしていることが、  
教師と生徒の関わりで、全ての生徒と  
日記を交換しています。現場では、時  
に母。時にフランク。時に裁判官のよ  
うに子どもたちと接しています。小学  
校の現場で一生涯働きたいという強  
い意志から編入を決意しました。小学  
校教員に必要なものは「やる気・体力・  
忍耐力・気合い」だそうです。学生時  
代は、しっかりと学びを深めることと、  
好きなことに励むことが重要であると

教えて頂きました。

★白井慶子さん(NTT東日本に勤務)  
は、就職を考えた時に、「教育」をキー  
ワードに様々な会社を見たところ興味  
が湧かず、もつとスケールの大きいも  
のを求めるようになりました。NTT  
のキヤッチコピーである「1000人  
を動かし1000万人に影響を与えら  
れる人」に魅力を感じ、入社。「一歩  
外の世界から教育を見つめ直したい」  
就活を通して、学生時代の4年間の自  
分というものがどういう人間か明確に  
し、向き合いました。ゆつくり考える  
ことが出来るのは学生だけで、この時  
間を大切にしたいとおっしゃって  
いました。

★齋藤彩乃さん(医薬品医療機器総合  
機構に勤務)は、教員も目指していま  
したが「人を幸せにできるのは学校だ  
けではない!」ということから、半年  
で公務員試験の対策を集中的に行つて  
いき、行政職に就きました。現場では、  
ゼミで学んだことが役に立っているそ  
うです。また、  
厚生労働省など  
にも行く機会が  
あり、様々な経  
験ができるよう  
です。その時そ  
の時のベストな  
判断をしてほし  
いとおっしゃつ  
ていました。



【報告 学生委員2年 西尾英里】





### 教育学科と教職教育開発センターの共催による 国際シンポジウムのお知らせ

#### 「米国のレッスン・スタディと日本の授業研究について考える」

わが国の「同僚性を基盤とする授業研究」はレッスン・スタディとして欧米やアジアの教員の間にも普及し、「授業改善」と「教師の職能成長(専門家としての成長)」の二つのねらいのもとで活発に展開されています。

本シンポジウムは、米国でも特にレッスン・スタディが活発に展開されているサンフランシスコ市からリーダーであるスーザン・アウダップ氏と、わが国の授業研究をリードしている村川雅弘・鳴門教育大学教授をお招きして、「米国のレッスン・スタディ」と「日本の授業研究」の動向と展望について考えます。シンポジウムでの討論を通して、わが国の「授業研究」を再評価、再構築のための手がかりとわが国の教員間の同僚性を回復する手がかりを得ることが期待されます。

#### 講演1

「サンフランシスコにおける

レッスン・スタディ

スーザン・アウダップ

(サンフランシスコ市統一学区・顧問)

#### 講演2

「日本における授業研究」

村川雅弘(鳴門教育大学教授)

#### シンポジウム

「米国のレッスン・スタディと

日本の授業研究について考える」

「オーガナイザー」

吉崎静夫(日本女子大学教授・

教職教育開発センター所長)

「シンポジスト」

スーザン・アウダップ

(サンフランシスコ市統一学区・顧問)

村川雅弘(鳴門教育大学教授)

澤本和子(日本女子大学教授)

田部俊充(日本女子大学教授)

#### 【参加申込み方法】

最新情報は、日本女子大学HPにアクセスして、取得してください。申し込みも、そのページからできます。



http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/kyoshoku/work.html#2012\_symmpo

#### 懇話会のお知らせ

#### タゴールと森の学校



「小さな者たちのために空のすべてがあり、地上のすべてがある」はタゴールの散文詩「歓迎のうた」の一節。通ったどの学校もドロップアウトした詩人は、大自然との一体感を求めるべくインドの森に理想の学校を開いた。森の学校に具現化された詩人の心について考える」

講師 内山 眞理子氏

(教育学科 22 回生)

タゴール研究者

日時 二〇一二年十二月一日(土)

午後一時三十分～三時三十分

会場 日本女子大学百年館(目白)

306, 307 教室

会費 無料

申込 同封のハガキまたは直接会場へ

その他 託児あり(2歳～5歳) 要予約

問合せ先 渡部 泉(文化部・24 回生)

03-3618-5275

#### 編集部より

今号では、目指せキャリアウーマンと学ぼうシリーズはお休みです。

内山眞理子氏  
プロフィール

一九四九年山口県生まれ。高校生の時、「タゴール詩集」(山室静訳)に出会い、自然と人間について讀めるタゴールの詩に深く魅了される。人間について学ぶため日本女子大学教育学科に進む。

卒業後、一九七二年～七三年インド、ウエスト・ベンガル州シャンティニケトンにあるピツショ・パロティ(通称タゴール国際大学) 哲学研究科にてタゴールの思想を学ぶ。翻訳書に『ユニコーンを探して(サタジット・レイ小説集)』(筑摩書房)、『もつとほんとうのこと(タゴール寓話と短編)』(段々社)、『ベンガルの苦行者』(迷い鳥たち)『お母様』(タゴール著、未知谷ほか)。著書にベンガルの吟遊詩人パウロを紹介した歌紀行『ベンガル夜想曲(愛の歌のありかへ)』(柘植書房新社)がある。仙台在住でもあり、東日本大震災後、思うところあってタゴールの歌詞集『スワデシ(自らの国)』の翻訳に取り組んでいる。

タゴールは日本にも度々訪れ、成瀬仁蔵の招きで日本女子大学成瀬講堂で講演、三泉寮で講話、瞑想の指導をした。

## 新任の先生の紹介

教育学科専任講師 瀬尾 美紀子先生



### ◆略歴や職歴、専門科目等のプロフィールを教えてください。

修士課程を終えた後、高校で数学の教員として働きましたが、結婚を機にキャリアを断ち、海外生活を経て、帰国後、東京大学大学院教育研究科に入學しました。博士課程単位取得退學後、同専任研究員、相模女子大学を経て、本學に着任しました。本學部では、教育心理学と、教育心理学実験演習を担当しています。

### ◆本學の学生の印象を教えてください。

とても真面目で、素直な学生が多い印象です。自分をきちんと持っています。友人との気持ちのよい距離の取り方を知っているようです。また、山の(気軽にアクセス出来ない)キャンパスなのが影響してか、効率的に時間を過ごすのが上手ですね！

### ◆学生時代に打ち込んでいたことを教えてください。

學部時代は、勉強、バイト、テニスもするテニスサークル(笑)をバランスよく！また、自身の教員生活を省み、一から教育学を勉強して入った大学院では、研究と育児を両立させるため、時間を有効に使うことを考えました。

育児休業から復帰して一年目に子どもが風邪をこじらせて入院し、病院で付添宿泊しながら修士論文の題目届を提出しに行ったことも。今では懐かしい思い出です。自分の子どもから学ぶことも多くありました。また、一度社会に出てからの学びは、ストリートに大学院に行った時のそれよりも、新鮮で、面白がありました。学びの目的が明確になったからかもしれません。

### ◆教員生活の中で大切にされていることはありますか。

大切にしているというより大切にしたいことですが、真剣に学ぶ時と楽しく学ぶ時の「メリハリ」です。大人数の授業はどうしても座学のようになりがちなので、「体」で学ぶ、ということを取り入れています。Tパズルを使って、思考をすることの重要性を知ってもらいます。頭がちよつと熱くなるでしょう(筆者もさせていただきました。熱くなりました)。

### ◆学生にメッセージをお願いします。

非常勤の時から感じていたことです。本學の学生は、一を言えば一以上を返してくれる、言わなくても出来る学生が多いようです。伸びる余地がたくさんある、とも言えるでしょう。学生時代の四年間は、基本的に自分のためだけに使える、かけがえのない貴重なものです(社会人になったり家庭を持つたりすると、そのこの意味がよくわかります)。いろいろなことに食欲にチャレンジして、ぜひ自分の可能性を広げていってほしいと思います。

### ◆ありがとうございます。

教育学科専任講師

山下 絢先生



### ◆簡単な経歴、職歴、専門科目等のプロフィールをお願いします。

學生時代は、教育行政学や教育政策研究のトレーニングを受け、その後は、研究員として応用経済学などを専門とする大学のセンターや統計科学を専門とする研究機関にて、学力と家計に関する研究や社会調査の実査と方法論を研究していました。大学教員(前任校)としては、商学部や法学部の学生を対象として教職課程科目を担当していました。現在、教育学科では、教育行政学、教育制度論、英語講読などを担当しています。

### ◆日本女子大の学生の印象はどうでしょうか。

アクティブな経験をされている人が多いですね。経験や心の貯金が上手です。また、知識の吸収だけでなく、自分の頭で考えることが出来る人が多くいます。そして、お昼の食堂で小鉢に野菜や果物を盛るのが上手ですね！もはや職人技です(笑)。

### ◆学生時代に打ち込んでいたこと、学んだことはありますか。

友人や指導教員の評価はさておき(笑)、自己評価としては、勉強、サークル(オーケストラに所属)、アルバイト、趣味にと、バランスよく時間を使っ

ていたように思います。学んだことは、多くの人が気づかないところでバックアップしてくれていたこと、うまくいかない現実が往々にして自分のせいであること、教育については個人のせいだけではなく、制度のせいでもあることです。詳しくはwebで・・・ではなくて、講義(教育におけるマタイ効果)でどうぞ！

### ◆教員生活の中で大切にされていることはありますか。

講義では特に次の三つを心がけています。一つ目は、自分自身が受講者であつたらこの講義を受講するか、つまり時間とお金を費やすか。二つ目は、教科書やネットからではなくこの講義ではなければ学べないものを提供しているかつまり坂道を登るメリットがあるか。三つ目は、卒業しても記憶に残る講義となりそうか。現状では先週の内容も忘れられているのかも：理想に近づけるように、頑張ります。

### ◆学生へメッセージをお願いします。

「迷い探し続ける日々が答えになる」(横原敬之「どんなときも」。勉強、サークル、恋愛、将来のことなど、「どうしたらいいの?」と思うことも多いと思いますが、自問自答や仲間との取り組みを続けていく中で、見えてくる場合もあるはず。成瀬先生の三綱領(信念徹底)「自発創生(共同奉仕)」は、既にそのことを言い当てているようにも思います。安易に答えを出さず、自分の夢そのものや、夢の実現に必要な準備を、悩みながらも、続けてもらえたらと思います。

### ◆ありがとうございます。

(学生委員3年 若野 恵理)



平成24年度 教育学科の会

\*数字は回生

会長 澤本 和子(研究室) 副会長 浦野 敬子(25) 大森 桃子(26)  
 監事 藤塚 和子(18) 三浦 栄子(18)  
 ◆研究室委員会 藤田 武志(研究室) 山下 絢(研究室)  
 ◆回生委員会 委員長 萩野 厚美(25) 副委員長 藤田 良子(25) 近藤 尚子(34)

【各部会】

※:部長  
無印:副部長

総務	会計	会員
※渡邊 明美(27)	※相沢 喜代美(26) 小菅 直美(26)	※松尾 里羽子(31) 青木 紀子(31)
庶務	文化	会報編集
※杉山 京子(27) 橋本 晴子(22)	※渡部 泉(24) 赤塚 国子(24)	※石井 美奈子(38) 大熊 智恵美(34)

◆学生委員会

学部1年	大河原 千佳 斎藤 果織 東條 栞 富田 愛理 増田 夏織
学部2年	西尾 英里 程塚 綾
学部3年	芦野 恵理 石井 麻菜 岩本 美咲 小野寺 夏子 君島 由紀 小泉 桃子 曾我 亜美 千葉 育美 寺島 実那子 森木 智子 山崎 愛美
学部4年	友成 奈緒子 三宅 詩織
大学院	渡邊 美里

日本女子大学教育学科の会  
 平成23年度決算書(平成23年5月1日~平成24年4月30日)  
 及び平成24年度予算書

【収入の部】

項目	平成23年度			平成24年度
	予算	決算	差異	予算(案)
入会金	140,000	83,000	57,000	100,000
会費	2,600,000	2,220,000	380,000	2,200,000
人間研究 助成金(*1)	180,000	178,500	1,500	180,000
人間研究 助成金(*2)	20,000	0	20,000	20,000
受取利息	5,000	1,229	3,771	1,500
その他	0	0	0	0
収入の部合計	2,945,000	2,482,729	462,271	2,501,500

(\*1)大学刊行助成金より  
(\*2)教育学科研究費より

【支出の部】

項目	平成23年度			平成24年度
	予算	決算	差異	予算(案)
印刷費				
人間研究	350,000	357,000	-7,000	350,000
会報	360,000	359,314	686	360,000
名簿(データ入力)	240,000	232,039	7,961	150,000
行事運営費				
大会	140,000	109,671	30,329	140,000
懇話会他	170,000	169,022	978	170,000
ホームカミングデー(謝礼)	50,000	25,000	25,000	50,000
理事会等運営費(会議費)	65,000	93,934	-28,934	70,000
活動費				
研究室委員会	220,000	220,000	0	220,000
学生委員会	50,000	14,439	35,561	50,000
回生委員会	150,000	97,828	52,172	150,000
総務部	30,000	43,460	-13,460	50,000
会計部	15,000	16,940	-1,940	20,000
会員部	15,000	3,360	11,640	10,000
庶務部	40,000	30,736	9,264	30,000
文化部	20,000	14,960	5,040	20,000
会報編集部	100,000	77,880	22,120	100,000
研究誌編集部	40,000	40,000	0	40,000
研究室経費	40,000	40,000	0	40,000
送料・通信費	780,000	808,405	-28,405	800,000
事務・消耗品費	20,000	25,085	-5,085	25,000
慶弔費	20,000	0	20,000	10,000
雑費	20,000	0	20,000	10,000
予備費	10,000	0	10,000	10,000
ホームページ委託費	0	52,300	-52,300	50,000
東日本大震災義援金				
日本女子大学桜楓会	0	500,000	-500,000	0
桃柿育英会	0	20,000	-20,000	20,000
新妻香織さんへの活動費	0	300,000	-300,000	0
支出の部合計	2,945,000	3,651,373	-706,373	2,945,000

【平成23年度 収支差額】	-1,168,644
【前年度からの繰越金(パソコン積立金を含む)】	9,475,616
【次年度への繰越金】	8,306,972

上記のとおり報告いたします。

平成24年5月26日

教育学科の会 会長 森田 伸子  
 会計 相沢 喜代美

上記について慎重に監査した結果、いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事 佐野 寿美礼  
 監事 清水 範子

## 会員の広場

定年後は趣味やボランティアなど、今までできなかったことに挑戦したいという方がたくさんいらっしゃいます。そこで今回はそのおひとり加藤さんに原稿をお願いしました

### ボランティアの夢叶う

23回生 加藤 良子



ある日、近所の江戸東京博物館で常設展示のガイドをしているボランティアに出会いました。その方は着物を着ていて、熱心に且つユーモラスな雰囲気の説明がされていました。私はその声をめれ聴きながら心の中で、なるほどと感心したり、へーそうか、とうなずいたりしながら、ずつついて行ってしまいました。「退職したら何かボランティアをしたい」と何となく思っていた私は、その時から、「私がしたいボランティアはこれだ」と確信するようになりました。

そして、退職を控えた夏に募集があることを知り、思い切って応募しました。

念願が叶ったときは、とてもうれしく、大学の合格通知をいただいた時のようでした。二か月の研修を経て、ボランティアの活動を始めることになりました。しかし、うまく話せるか心配で、家族や友人を相手に練習をしました。「こちらの模型のお屋敷は、越前福井藩松平・・・誰だっけ？」とすらすらいかず、益々心配が募りました。初めてのご案内は、女性の三人連れでした。私が初心者ということが伝わったらしく、「大丈夫ですよ」と帰りがけに励ましてくださり大感謝でした。こうして、念願の江戸博でのボランティアが始まりました。ところが・・・

三月末で公立小学校を定年退職し、心置きなくボランティアが出来ると思った矢先に東日本大震災があり、博物館が閉館になってしまいました。三月十一日は、博物館ではお客様の誘導、帰宅困難者の世話と大変な時を過ごしたそうです。数カ月後、開館に至りホッとしました。

今は、ボランティアになって一年以上が過ぎ、少しゆとりをもって案内ができるようになった気がします。今までにご案内したお客様は様々です。

- ・歴史に興味がありさらに聞きたい方
- ・よく内容が分からないので説明を求めている方
- ・家族で来て、子どもに分かるような説明を求める方
- ・研修や親睦で来て説明を求める方々(学生、町内会、敬老会、PTA、趣味のグループ等々)

- ・海外からのお客様(この場合は外国語担当のボランティアが対応します)
- ・どなたもわざわざボランティアカウンターに来てくださったお客様です。「楽しい時間を過ごせた。ボランティアを頼んでよかった」と感じていただけるように努めています。

ボランティアは、誰かのため役立ちたいという気持ちから行うことが多いと思いますが、私の場合は、自分のためになっけていて、大げさな言葉で「生きがい」になっけています。頭と体が元気である限り、続けていこうと思っけています。

皆さん、江戸東京博物館にいらしたらぜひ常設展示室においてください。ボランティアカウンターで仲間とともにお待ちしています。

## ハガキ⇄コーナー



◆昨年、テスト用具「K・ABC」を寄贈させていただきありがとうございました。81歳の現在、ボランティアと趣味の世界を楽しみながら、折々に大学の講座で最新の情報にわくわくしております。ご盛会をお祈りしております。

4回生 飯島 澄子(東京)

◆ご盛会を御祈り申し上げます。

6回生 松山 依子(神奈川)

◆心から御会の御盛会をお祈り申し上げます。諸先生や先輩 同輩 後輩の方々にも何卒よろしく御願ひ申し上げます。

8回生 戸谷 澄子(埼玉)

◆後期高齢者になりました。知力、体力衰えは哀しいかな認めざるを得ません。老いを受け入れながら、何とかプラス思考で日々を大切に心がけております。草60号の藤田先生の「提言」を拝読、心にストンとびきました。ありがとうございます。

9回生 大菅 佳子(千葉)

◆後期高齢者のワクに入られても、元気に生活しております。ひたすら後輩の活躍を祈るのみです。

9回生 高見 隼代(兵庫)

◆8月半ばに、6人目の孫ができる予定。福井に住んでいる次男のところ!! 大飯原発稼働の政府の姿勢、とても気になっけております。どうしても人間の営みと、手におえない原子炉とが共存するということ、納得できないのです。

10回生 上野 優子(千葉)

◆今年卒業50周年。感慨深い思いがします。人間研究の卒論の概要を目にし、何も考えない我が身に一層、反省の感を

◆今年2回生は卒業後60周年を迎えます。最後の「ヨコの会」を6月4日に開催する事になりました。80歳を越える皆様、健康不安が出てきますので何人あつまるか心配です。大先輩でありながら教育学科の会に協力出来なくて申しわけないと思っけております。

2回生 中村 淑子(東京)

◆脳内出血を起こして7年目。入院・在宅介護の繰り返しです。会の御発展を祈願致しております。

2回生 石田 静子(東京)

持ちました。この気持ちをずっと持ち続けられるといいのですが。なかなか難しいところです。

12回生 今永 令子(神奈川県)  
 ◆重度心身障害児・者の通所施設の活動に立ち上げの段階から参加して16年。現在、食事介助などの現場のサポートと後援会の会長としております。回生の方々に、後援会員としてご支援をいただいで感謝の日々です。

13回生 中村 和子(千葉)  
 ◆年代年代で忙しさの中身が違い過ぎて来ました。娘が結婚11年目にしてやっとな女の子に恵まれました。3歳3カ月の孫娘は将来家政婦になれるかのように、ママの仕事を手伝っています。口八丁手八丁の孫娘に接し、嬉しく暮らしています。子供のエネルギーが、見ているジジババに活力を与えてくれます。  
 14回生 角田 啓子(千葉)  
 ◆今年70歳で会社を退職致しました。現在は、ボランティアや趣味に充実した日々を過ごしております。

15回生 竹内 和子(埼玉)  
 ◆いつもお世話になりありがとうございます。  
 15回生 芳野 紀子(東京)



◆ご心配ありがとうございます。震災から1年経ちましたが、復興とは離れた者がおっしゃる言葉。こちらはまだまだです。『いつまでがんばればいいのか』とは、こちらの挨拶です。ご盛会祈

ります。19回生 相馬 郁子(宮城)  
 ◆葦60号の提言を拝見して、なるほどと思います。子ども達が「困難を組み替える知恵」を身につけたら、人生に役立つことが多いと思います。そういう知恵が身につくような勉強の姿勢をアドバイスできたら素晴らしいと思います。私自身も遅ればせながら、『むずかしいことを楽しみながら行う』方法を考えたいです。

24回生 赤塚 国子(神奈川県)

◆税理士、客員教授(租税法)、民事調停委員を勤めております。東京税理士杉並支部では租税教育委員会委員長としており、小学校を訪問する機会も少なくありません。租税教育に関し、ご要望等ございましたら是非現場の声をお聞かせ下さい。  
 24回生 川井 和子(東京)  
 ◆ちよつとだけ会のお手伝いをさせていただき、皆様のご苦労がわかりました。「葦」の紙面も変わりましたね。明るくなった様な気がします。新しい役員さんの参加を願っております。

26回生 鶴崎 玲子(東京)  
 ◆同窓の方々が各方面で活躍のこと、大変嬉しく存じております。  
 29回生 木村 陽子(東京)

◆毎回お誘いありがとうございます。出席できず申し訳ありません。

31回生 若林 純子(神奈川県)

◆日々変わっていく教育現場において、もう27年。思えばあつという間でした。昨年は、通信教育で久しぶりの「大学生」になり、学びました。美術館や映画館で「学生証」を出すときまじまじと見られ、

ちよつぱり「快感(ー)」を味わいました。  
 34回生 日野 昌子(神奈川県)  
 ◆葦60号の藤田先生の「提言」、興味深く拝読しました。困難があると、つい相手(原因)に変化が起こることを期待してしまいがちですが、自分自身の考え方や視点を変えることで、困難も楽しみに変わるのですね。心がけたいと思えました。

35回生 坂口 幾世(東京)

◆昨年度転勤(異動)し、目白の近くの職場に通っています。学生だった頃の街並で、当時よく行ったお店もそのまま…。駅は随分綺麗になりましたが、懐かしい気持ちで通勤しております。現在は西生田なのですね。  
 37回生 後藤 佳子(東京)  
 ◆楽しく拝読しております。娘が、中・高校と生田に通い、この春卒業しました。葦60号で、娘が豊明小学校の3・4年で担任をしていた上田和子先生のお名前をハガキコーナーで目にして、とても懐かしい思いでした。ご活躍お祈りしています。  
 38回生 中井千穂(東京)

◆クロスワードの賞品を贈って頂いたのが、奇しくも私の〇回目の誕生日前日でした。思いがけないプレゼントを有難うございました。  
 38回生(山梨)



◆何年か続けていた入力作業からも離れた。今は「葦」が教育学科との唯一のつながりです。毎回、楽しみにしております。  
 39回生 大山 五恵子(東京)  
 ◆高校生と小学生の子どもがいます。葦60号の「平塚らいてうと教育」興味深く

読ませていただきました。久しぶりに、ルソーの「エミール」を読み返してみようかと思いました。

40回生 坂本 三紀江(東京)  
 ◆大学を卒業して11年間、小学校教員として忙しくも充実した日々を過ごしてきました。今春、出産する予定です。初めての育児なので不安もありますが、笑顔忘れず、ゆつたりと楽しみたいです。

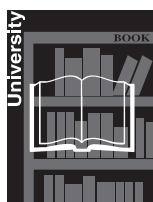
51回生 柴川 かおり(埼玉)

◆気づいたら卒業して7年たっています。気持ちはいつまでも学生気分なのに、任される仕事はどんどん増えて、4月はいつもギリギリのところを生きている感じです。教員生活8年目。卒業生を送り出し、すぐに新入生を受け入れ、6年生と1年生のギャップを楽しんでいます。  
 55回生 浦野 めぐみ(東京)

◆いつも学科と卒業生の活動をうれしく拝見しています。幼稚園教育関係のことでしたら、何でもお手伝いします。  
 大学院博士8 志賀 智江(東京)

◆目下、藤原書店から出す『横井小楠研究』(400字詰め原稿用紙、約2000枚)の校正に明け暮れています。それが済んだら、創文社から新体系の1巻として「教育哲学」を予定しています。日本女子大学教育学科に勤務して以来の課題をやつと果すことになりました。

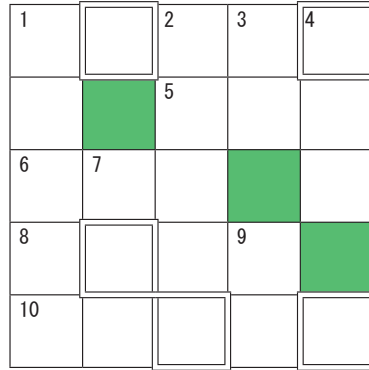
元教員 源 了圓(東京)





## クロスワードパズル

二重線枠の文字を組み合わせてできる5文字(漢字2文字)の言葉は?



### ヒント!

今回の問題は〇〇と、言っただけのように頑張って作成しています。

#### <ヨコのカギ>

- 今年度から中学校の保健体育で必修化となった「武道」のひとつ。剣道や相撲よりも選択する学校が多いようです。
- 馬のひづめのこと。
- 傘をさしたりささなかつたり・・・。
- おいしいお米とおいしいお酒。トキで有名な県といえば。
- 事後処理のこと。

#### <タテのカギ>

- サファイヤ・ルビーに次ぐ硬度、ダイヤモンドに近い屈折率の人造石といえば、キュービック〇〇〇〇〇。
- おいしい炭火焼きといえば備長炭。材料となる木はこれ。
- 味噌をこれに見立てて牡蠣を入れて〇〇鍋。
- 〇〇〇×〇〇〇とは、双方に利益のある状態・関係のこと。
- インターネットは便利ですが、悪質〇〇〇にご用心。
- サザエさん一家の猫の名前は?

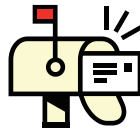
解答を同封のハガキに書いて送ってください

締め切り：10月12日(金) 必着

正解者10名に図書カードを贈呈します。(正解者多数の場合は抽選)

### ■前号の正解は<くらいてう>でした

たくさんのご応募、ありがとうございました。



#### 【当選者発表】(敬称略)

石田静子(2)	今永令子(12)	角田啓子(14)	島村美知子(22)
坂口幾世(35)	荻野美香(37)	中井千穂(38)	大山五恵子(39)
榮川かおり(51)	青木陽子(院4)		

北島 幸子(23回生)

◇今年度の役員名簿をご覧になって、学生委員が増えたことに気づきましたか?会の活性化のため3年生の各ゼミから選出されたのです。卒業後もOG会員として活躍されることを期待します。

高橋 藤枝(23回生)

◇「葦」の編集に携わるようになって9年になります。編集委員のメンバーとの出会いも「縁」ですね。大切に育てたいものです。宮地先生の「提言」に共感いたしました。

大熊 智恵美(34回生)

◇今号はお休みですが、目指せキャリアウーマンでのインタビューのお誘いを受けました。航空会社から子ども家庭支援センターへの転職は珍しいかもしれませんが。編集委員を辞めたらお受けしますとお返事しました。

石井 美奈子(38回生)

◇目の前のことにおわれる毎日ですが、教育学科の会や地域の集まりなどに参加すると、小さきまの新たな知識に出会うことができ、行動を起こすことの大切さを痛感します。

### ※編集後記

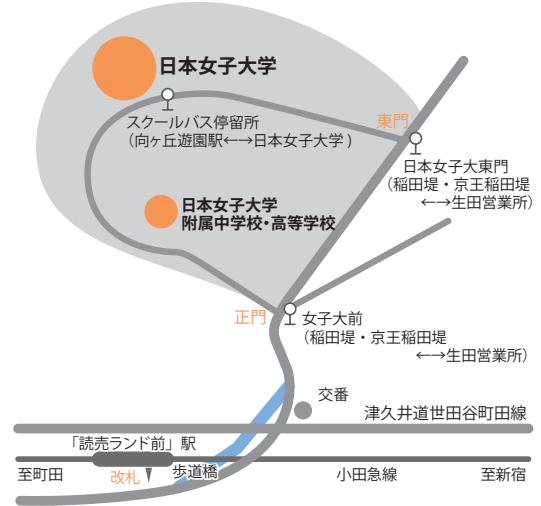


## 第22回 日女祭のご案内

平成24年

10月20日(土) 午前9時30分～午後5時  
21日(日) 午前10時～午後5時

\*入場は両日共に午後3時30分までです



### 交通のご案内

- 小田急線読売ランド前駅下車徒歩15分  
新宿から急行25分(向ヶ丘遊園乗り換え)  
準急30分
- 向ヶ丘遊園駅 北口3番停留所より  
スクールバス(所要時間約15分・無料)

### スクールバス日女祭特別ダイヤ

( )は主に教職員および実行委員用



時	向ヶ丘遊園駅発	日本女子大学発
8	(30)	
9	(00) 20 40	(10) (30) (50)
10	00 20 40	10 30 50
11	00 20 40	10 30 50
12	00 20 40	10 30 50
13	00 20 40	10 30 50
14	00 20 40	10 30 50
15	00 20 (40)	10 30 50
16	(00) (20) (40)	10 30 50
17	(00)	10 30

※2012年8月時点の情報ですので、変更になっている場合もあります。